1. 令和3年10月～12月期の景気動向

今期のDI平均値は△34．6ポイント。建設業では23ポイント下がったが、小売業は8ポイント、製造業は5ポイント、サービス業は3ポイント上がった。前期の7～9月の△33．2ポイントから1．4ポイントマイナスとなった。

業種／項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 57 (△ 41)	△ 44 (△ 40)	△ 8 (△ 7)	△ 13 (△ 24)	△ 21 (△ 10)	△ 38 (△ 32)	△ 57 (△ 65)	△ 38 (△ 61)	△ 22 (△ 11)	△ 22 (△ 33)
採算		△ 47 (△ 41)	△ 44 (△ 47)	△ 3 (△ 19)	△ 27 (△ 26)	△ 32 (△ 11)	△ 38 (△ 22)	△ 34 (△ 52)	△ 42 (△ 50)	△ 17 (△ 23)	△ 16 (△ 33)
資金繰り		△ 31 (△ 6)	△ 37 (△ 7)	△ 20 (△ 5)	△ 24 (△ 13)	△ 11 (△ 11)	△ 37 (△ 44)	△ 35 (△ 44)	△ 29 (△ 46)	△ 27 (△ 28)	△ 28 (△ 32)
業況		△ 56 (△ 33)	△ 47 (△ 40)	△ 3 (△ 8)	△ 17 (△ 23)	△ 45 (△ 45)	△ 63 (△ 45)	△ 46 (△ 54)	△ 38 (△ 42)	△ 23 (△ 26)	△ 23 (△ 31)
経営上の当面する問題点	1位	民間需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞	
	2位	官公需要の停滞		原材料価格の上昇		仕入単価の上昇		消費者ニーズの変化への対応		人件費の増加	
	3位	材料価格の上昇		生産設備の不足・老朽化		従業員の確保難		販売単価の低下		材料等仕入単価の上昇	
業種別コメント		長期化するウッドショックの影響で、依然として木材価格の高騰が続いており、業況は23ポイントマイナスとなった。新潟県の公共事業も年々減少傾向にあり、来期以降も非常に厳しい状況が続くとみられる。		新型コロナ禍において、自動車部品やアウトドア関連需要などの好調により、関連業種を中心に業況は5ポイント回復した。しかし、来期見通しは半導体などの材料不足と価格高騰により14ポイントのマイナスとなっている。		巣ごもり需要に関連する一部業種は回復が見られたが、全体的にはほぼ横ばいとなった。来期見通しは新たな変異株の影響で消費の冷え込みが予想されることなどから、18ポイントの悪化となっている。今後は消費者ニーズを的確に捉えた商品の提案が求められる。		9月以降新型コロナウイルス感染者数が減少傾向にあったことで、業況は8ポイント回復するなど、全項目においてプラスとなった。生活必需品や巣ごもり需要は今後も続くことが予想されることから、来期見通しは8ポイントプラスとなっている。		県内の新型コロナウイルス感染者数は大幅に減少し、忘年会シーズンでの業況回復を期待したが、ほぼ横ばいとなった。来期は新年会や歓送迎会シーズンを迎えるが、新たな変異株が確認されたことなどもあり、再度自粛ムードが広がる可能性がある。感染症予防対策を徹底し集客アップを図るだけでなく、テイクアウトメニューの充実を図るなど売上確保に向けた取り組みが必要である。	



とくに好調 (50≦DI)　好調 (25≦DI<50)　まあまあ (0≦DI<25)　不振 (△25≦DI<0)　きわめて不振 (DI<△25)

※当所では分析にあたってD･I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※( )は前回調査時のD･I値